



加賀提灯

歴史と特色

提灯は松明(たいまつ)に代わる携帯用灯火具である。16世期後半に籠提灯が作られ、17世期(江戸時代初期)には現在のような火袋の折りたためる箱提灯が作られた。その後、ぶら提灯、高張り提灯、弓張り提灯、小田原提灯と種類も増え、用途も灯火用から祭礼用、観灯、装飾用と広がっていく。提灯の普及は江戸時代に安価な和ろうそくが生産されるようになったためでもある。金沢では、最盛期には60軒の提灯屋があったが、懐中電灯の普及、街灯の整備等のため激減した。現在は提灯と兼業した数少ない和傘職人が、祭礼用装飾用として製作している。加賀提灯は、竹ヒゴを1本1本切断して骨にしており、岐阜提灯等のように長い竹を螺旋状に巻いた提灯と異なるため、伸びが大きく、1本が切れても全部がはずれることがなく丈夫なことが特徴である。

역사와 특색

제등은 16 세기 후반에 횃불을 대신하는 휴대용 등화 도구로 만들어졌으며, 그후 제례용, 장식용으로 변져나갔다. 가나자와에는 전성기에는 60 개의 제등상점이 있었다. 가가제등은 짧게 자른 댓개비를 뼈대로 만드는데, 긴 대나무를 나선상으로 감은 다른 제등과는 달리 길게 늘어나며 튼튼하다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	祭礼用提灯、装飾用提灯(제례용제등, 장식용제등)
主な生産者(주요 생산자)	五十嵐商店(이가라시 상점) 〒920-0903 金沢市博労町62(가나자와시 바쿠로마치 62) TEL (076) 231-7441



歴史と特色

水引は元來贈り物の飾りとして、主に祝事に用いられた。その語源は麻などを水に浸して皮をはぎ、ひもとしたことにあると言われ、紙の発達と同時に美しい水引ができたものと思われる。

江戸時代、武士や町人の頭にまげを結ぶ元結いとしても作られていた。現在は、材料の水引は県内で作られていないが、水引細工は技術も進歩し、特に慶事用の華やかな松竹梅や鶴・亀・宝船飾りなどが受け継がれている。また大正初期に、津田左右吉氏が屠蘇につける蝶からヒントを得て内裏びなを考案し、水引人形の基礎を作り、技法が津田家に伝えられている。この人形は、金沢の風土にあるわびさびの精神に通じる気品の高い人形として、高い評価を受けている。

역사와 특색

미즈히키는 원래 선물을 장식하기 위해, 주로 경사스런 일에 사용돼 왔으며, 일본전통종이 와시의 발달과 더불어 발달됐다. 경사용의 화려한 소나무, 대나무, 매화, 그리고 학, 거북, 보물선을 본뜬 장식 등이 전해져오고 있다. 미즈히키인형도 가나자와의 문화를 전해주는 인형으로 높은 평가를 받고 있다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	内裏びな、芭蕉翁、婚礼用水引飾など(다이리비나, 바쇼옹, 결혼용 미즈히키 장식 등)
主な生産者(주요 생산자)	津田水引折型(쓰다 미즈히키 오리가타) 〒921-8031 金沢市野町1-1-36(가나자와시 노마치 1-1-36) TEL (076) 214-6363

加賀水引細工